

皆さんは、「久留米」という地名から何を思い浮かべられるであろうか。

久留米餅や久留米ラーメン、……。人

口三十万人の中核市であるが、意外な日本一がある。それは、焼き鳥店が人口一万人当たり八軒と、全国一多いB級グルメの街である。評判の店に行く

と、しばしば大学関係者と顔を合わせる。ことなる。上古の昔、久留米には筑後国の国府が置かれた。時代が下がり、関ヶ原の戦いのあと、丹波福知山から有馬豊氏が初代藩主として久留米に移封され、二十一万石を領し、明治維新までの約二百五十年十一代にわた

久留米のこと

神代 正道

●久留米大学理事長

を記念したものである。

明治以後は軍都として知られ、全国最強と言われた帝国陸軍第一八師団（菊師団）、第一二師団、第五六師団（龍

師団）の本拠地であった。昭和三十六年、筆者が医学部進学課程入学のころ、校舎は旧陸軍の敷地の一角にあり、理科の実習室や食堂は木造の旧兵舎であった。「爆弾三勇士」のことをご存じの方はあるうか。昭和七年、第一次上海事変のおり、久留米第一八師団の三人の工兵が爆弾筒を抱えて敵陣地の強固な鉄条網を自爆破壊し、進撃路を開いた。当時、軍神「爆弾三勇士」として称賛された。前述した医学部進学課

程校舎の敷地内に、「爆弾三勇士」の銅像の台座が残っており、筆者も入学して初めて三勇士のことを知った次第である。

このように戦後十数年を経ていたにもかかわらず、筆者の医学部入学時、周囲に旧軍隊の名残を深くとどめていた。現在、旧陸軍の敷地跡は、久留米大学御井（文系）キャンパス、陸上自衛隊駐屯地及び陸上自衛隊幹部候補生学校などへと変貌を遂げ、同じ敷地内にあった旧陸軍病院は、戦後、国立久留米病院となり、平成六年、国立病院の統廃合が行われたおり、久留米大学へと移譲され、現在は久留米大学医療

センターとして久留米市東部の医療を担い、大病院を補完する存在となった。

また久留米は、わが国のゴム加工産業の発祥の地と言っても過言ではない。明治以降、大正昭和の日本の工業発展の歴史そのものに日本ゴム（現アサヒコーポレーション）、月星ゴム（現ムーンスター）及びブリヂストンタイヤ（現ブリヂストン）の三社が久留米に誕生し現在に至っている。中でもブリヂストンは、タイヤメーカーとしては世界一であることは周知のごとくである。三社ともに久留米大学医学部キャンパスに近く、筆者の学生時代には、風向きによって強くゴム臭が漂うことがあったが、現在では全く無臭となり、ゴム加工産業の技術の進歩を実感する次第である。

私どもの久留米大学は、ブリヂストンの創業者である石橋正二郎氏の存在なくしては語るができない。久留

米大学の前身である九州医学専門学校は、昭和三年、敷地と鉄筋コンクリート三階建て校舎を石橋正二郎氏により寄贈され、久留米市立病院を附属病院としてスタートした。八十六年前に建てられた旧校舎は、市街のほとんどを焼き尽くした昭和二十年の大空襲からも免れ、現在なお学長室、理事長室を含め、大学本部としてりっぱに機能している。

久留米大学医学部キャンパスは筑後川河畔に位置し、自然環境に恵まれている。しかし、三十年余り前までは筑後川下流域は日本住血吸虫の浸淫地帯であり、川に入ることはもちろん、河川敷に入ることさえも厳禁であった。日本住血吸虫は、汚染された川に入るにより経皮的に感染し、主として肝臓に寄生して肝硬変、肝不全へと進展し、不幸な転帰をとる不治の風土病（地方病）として古くから知られていた。筆者の学生時代、寄生虫学で落第



点をとると、ゴム長靴を履き、試験管と割り箸を持って、筑後川河川敷で日本住血吸虫の中間宿主であるミヤイリガイという小さな巻貝を集めることで合格点ももらっていた。

昭和六十年代になり、コンクリートによる護岸工事が進んだ結果、ミヤイリガイが撲滅され、平成十二年に日本住血吸虫症の終息宣言が出された。現在では、緑あふれる河川敷は学童の遠足やピクニック客でにぎわい、川には大学のボート部の練習風景が見られるなど、平和な風景に満ちており、今昔の感に堪えない。